

HONDA

汎用製品

エンジン

GXV390

取扱説明書



お買いあげありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

はじめに

- この取扱説明書は、お買いあげいただいたエンジンの正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みください。

安全に関する表示について

本書では、作業員や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。



危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

- エンジンを操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
- エンジンを貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しくください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

- この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

e-SPEC は、Honda が「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。



本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

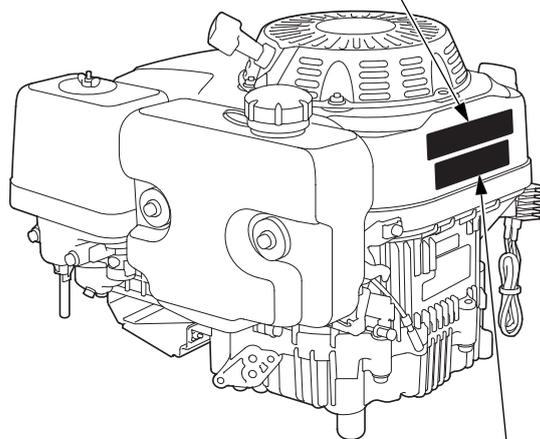
● 安全ラベル

Honda エンジンをお安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。

安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



※ 安全ラベルと貼付位置はタイプにより一部異なる場合があります。

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- エンジン単体でエンジンを始動しないでください。このエンジンは作業機に搭載した状態で使用できるように作られています。
- エンジンを作業機などに搭載する場合は、安全性、耐久性を確保するために高度な技術が必要です。搭載する際は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。また、作業機の取扱説明書も事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解ください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンを始動する前に点検しましょう」(5～9頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機の運転操作をさせないでください。また、子供には絶対にさわらせないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外してエンジンを操作しないでください。また弊社がみとめない改造または使用はしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用してエンジンを使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- エンジンの日常点検、整備を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理してからご使用ください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、給油限界位置を超えないように補給し、燃料タンクキャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

警告

- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などの換気の悪い所では使用しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には有害な成分が含まれています。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 建物や遮へい物などで風通しの悪い場所、また排気ガスがこもる場所などでも有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがありますので使用しないでください。
- 思わぬ転倒事故を防止するためにエンジンは水平で安定した場所に設置してください。また火災を防止するために建物およびその他の設備から離して設置してください。
- エンジンのまわりには、わらくず、紙くず、木くずなどの燃えやすいものや、油脂類、石油製品、火薬などの危険物を近づけないでください。火災や爆発の危険があります。
- 運転中はもちろん、使用しないときも、エンジンの上部に物を置かないでください。変形したり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 運転中や停止直後はエンジン本体やマフラーなどに触れないでください。熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 運転中は高電圧コードや点火プラグキャップに触れないでください。感電のおそれがあります。

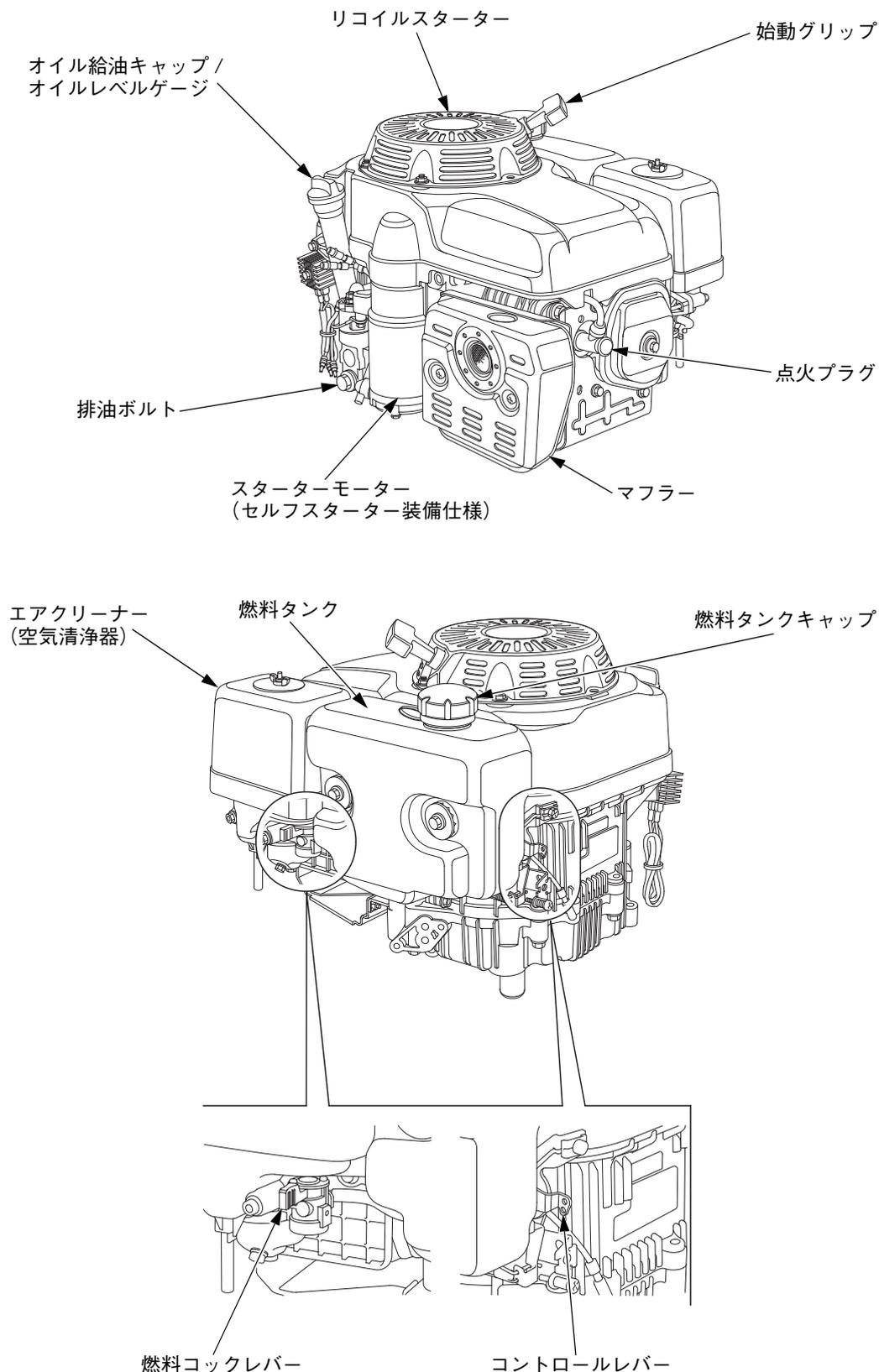
エンジンを始動する前に点検しましょう

⚠ 警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

各部の名称と点検箇所



ガソリンの点検

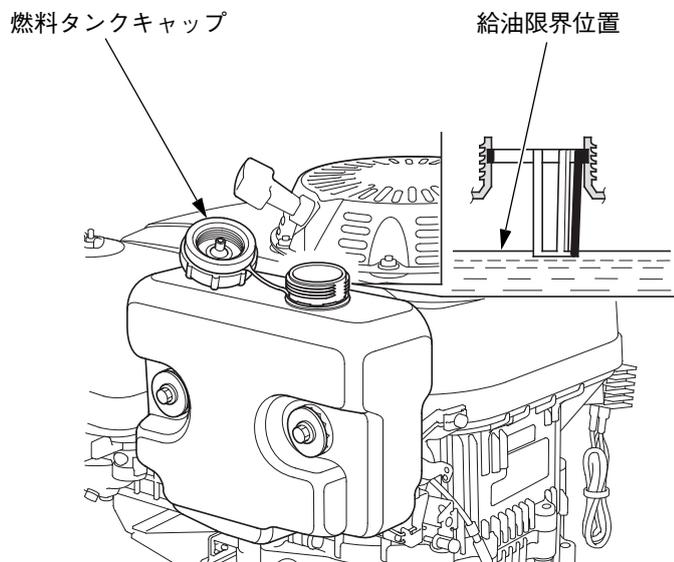
⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。ガソリンを補給するときは

- ・エンジンを停止してください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- ・ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料タンクキャップからにじみ出ることがあり危険です。

《点検》

エンジンを水平にし、燃料タンクキャップを外し、注入口より燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。



《補給》

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- ・使用条件により給油限界位置はさらに低くしてください。
- ・補給後、燃料タンクキャップを完全に締付けてください。

取扱いのポイント

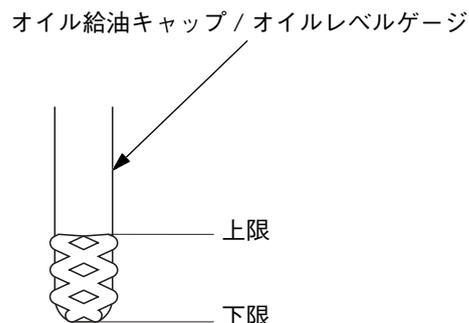
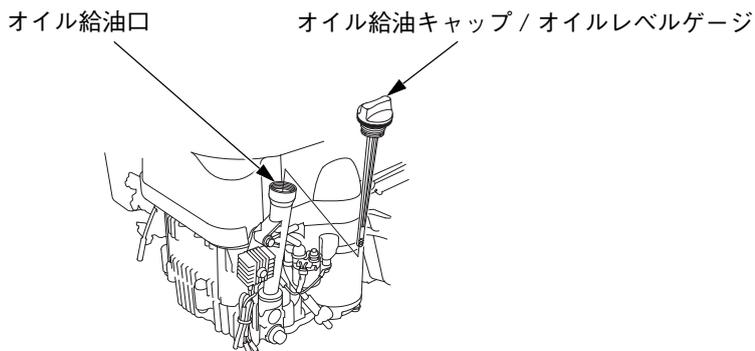
- ・必ず無鉛ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ・ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジンを始動する前に点検しましょう

エンジンオイルの点検

《点検》

1. エンジンを水平にしてオイル給油キャップを外し、オイルレベルゲージについたオイルをふき取ります。
2. オイル給油キャップをねじこまずにオイル給油口に差し込み、抜き取ります。
3. オイルレベルゲージの上限までオイルがあることを確認します。



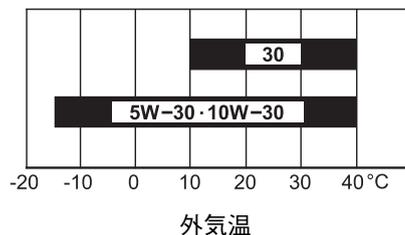
《補給》

- ・ オイル量が下限に近かったら、新しいオイルをオイルレベルゲージの上限まで補給します。
- ・ オイルの汚れや変色が著しい場合はオイルを交換してください。
(交換方法は13頁参照)

《推奨オイル》

Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30)
または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

オイルアラート

焼付き防止エンジン自動停止装置（オイルアラート付タイプのみ）

エンジンオイル量の点検を必ず行ってください。

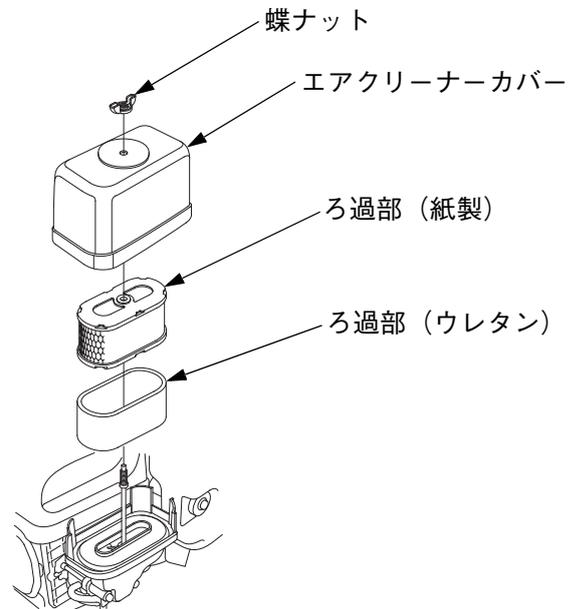
エンジンオイルが不足するとエンジンは自動的に停止します。エンジンオイルを補給してください。エンジンオイルが不足したままでは始動できません。

取扱いのポイント

- ・オイルアラートが作動した状態でエンジンの運転をつづけると、エンジンが焼付くなど損傷する原因となります。
- ・オイルが規定量入っているにもかかわらず、本機が傾斜しているとオイルアラート機構が働き、エンジンが停止することがあります。

エアクリナー（空気清浄器）の点検

1. 蝶ナットを外し、エアクリナーカバー、ろ過部（ウレタン・紙製）を取外し、ろ過部（ウレタン・紙製）の汚れを点検します。
2. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃または交換を行ってください。（清掃方法は 14 頁参照）



エンジンを始動する前に点検しましょう

バッテリーの取付けと点検 セルフスターター付

⚠ 警告

- バッテリーに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
- バッテリーを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。工具などが接触するとショートする場合があります。

- ・ バッテリーは市販品の12 V/30 Ah以上の仕様をご使用ください。バッテリーの購入についてはお買いあげ販売店にご相談ください。
- ・ バッテリーとエンジン間のコードは自動車専用ビニール被覆電線（低電圧用）で断面積が15 mm²以上のもので圧着端子付きを使用してください。コード長さは1.5 m以内にしてください。
- ・ バッテリー端子にグリース等を塗布し保護してください。さらに⊕端子にはカバーをしてください。
- ・ 端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは確実に締付けてください。端子に白い粉が付いている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。

バッテリーコードの接続

取扱いのポイント

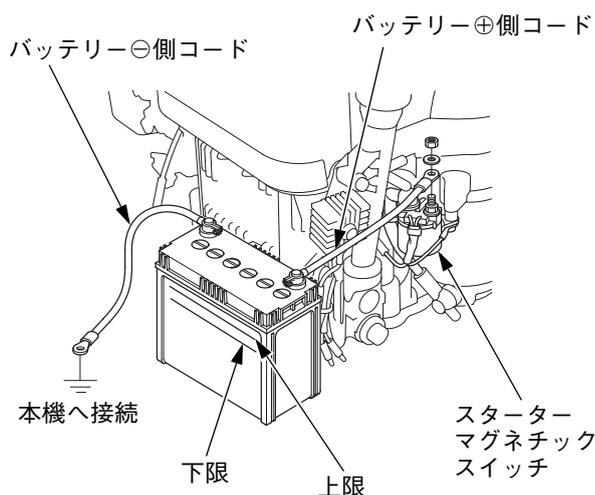
バッテリーコードの接続は必ず次の手順で行い、取外しは逆の手順で行ってください。誤るとショートする場合があります。

《取付け》

1. バッテリーの⊕側コードを図のようにスターターマグネチックスイッチの⊕端子に確実に接続します。
2. バッテリー⊖側コードを確実に本機にアースさせます。
3. バッテリーコードの⊕端子をバッテリーの⊕ターミナルに接続し、次に⊖端子を⊖ターミナルに接続します。

《点検》

- ・ バッテリーの液面が上限と下限の間にあることを確認します。
- ・ 少ないときはキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
- ・ キャップの通気孔の詰まりがないことを確認します。
- ・ バッテリーの接続がまちがっていないか、また締付けナットがゆるんでいないことを確認してください。



取扱いのポイント

- 必ず蒸留水を補給してください。水道水はバッテリーの寿命を縮める原因となります。
- 上限以上に蒸留水を補給しないでください。入れすぎると電解液がこぼれて金属を腐食させる原因となります。万一バッテリー液をこぼしたときには水洗いしてください。

エンジンのかけかた

警告

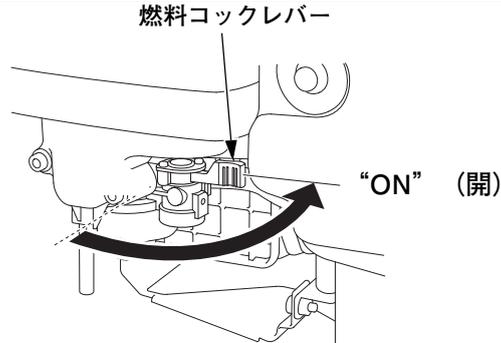
- ・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

かけかた

[1]

燃料コック

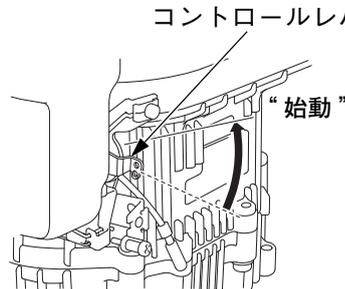
- ・燃料コックレバーを“ON”（開）の位置に合わせます。



[2]

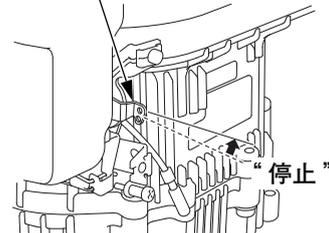
コントロールレバー

- ・コントロールレバーを“始動”の位置にあわせます。



- ・エンジンが暖まっているときはコントロールレバーを“停止”の位置から矢印の方向に少し動かします。

コントロールレバー



[3]

始動グリップ

- ・作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



取扱いのポイント

- ・始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- ・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

エンジンスイッチ

セルフスターター付

- ・エンジンスイッチを“START”（始動）の位置まで回しエンジンを始動します。
- ・エンジンが始動したらエンジンスイッチから手を離します。スイッチは自動的に“ON”（運転）の位置に戻ります。

取扱いのポイント

セルフスターターを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

[4]

始動

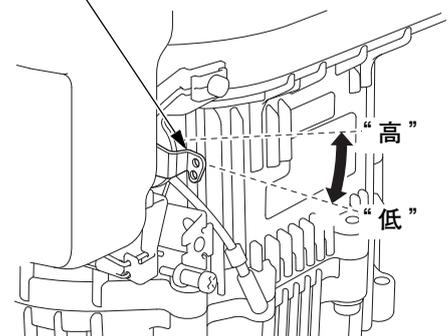
- ・2～3分間暖機運転を行ってください。

[5]

コントロールレバー

- ・コントロールレバーを、使用する回転数に調整します。

コントロールレバー



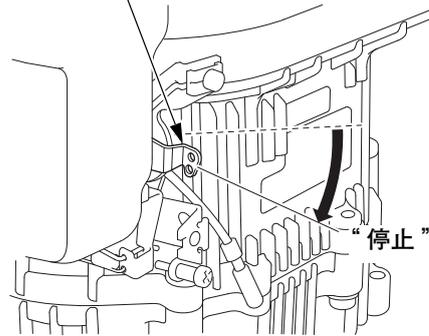
エンジンのとめかた

[1]

コントロールレバー

- ・コントロールレバーを矢印の方向に“停止”の位置までいっぱいに戻します。

コントロールレバー

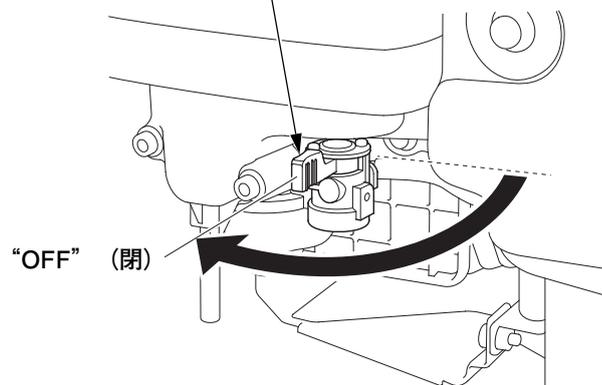


[2]

燃料コック

- ・燃料コックレバーを“OFF”（閉）の位置に合わせます。

燃料コックレバー



定期点検を行いましょ

お買いあげいただきました Honda エンジンをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょ。

定期点検表

点検項目	点検時期 (1)	作業前点検	1ヵ月目	3ヵ月毎	6ヵ月毎	1年毎	参照頁	
			または 初回 20 時間 運転目	または 50 時間 運転毎	または 100 時間 運転毎	または 200 時間 運転毎		
エンジンオイル	点検	○					7	
	交換		○		○		13	
エアクリーナー	点検	○					8	
	清掃			○ (2)			14	
	交換					○ (*)		
点火プラグ	点検、調整				○		15	
	交換					○		
スパークアレスター (装備機のみ)	清掃				○		16	
アイドル回転数	点検、調整					○ (3)	-	
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○ (3)	-	
燃焼室	清掃	1000 時間運転毎 (3) (4)						-
燃料タンク、 燃料フィルター	清掃					○ (3)	-	
燃料チューブ	点検	2 年毎 (必要なら交換) (3)						-

(*) 紙ろ過部のみ交換してください。

(1) 点検時期は表示の期間毎または時間運転毎のどちらか早い方で実施してください。

(2) ホコリの多い場所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は 10 時間運転毎または 1 日 1 回行ってください。

(3) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施してください。

(4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

警告

- ・点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。
- ・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

点検・整備のしかた

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠ 注意

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《推奨オイル》

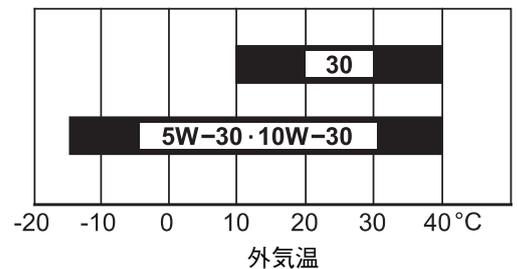
Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30)

または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

《オイル容量》 1.1 L

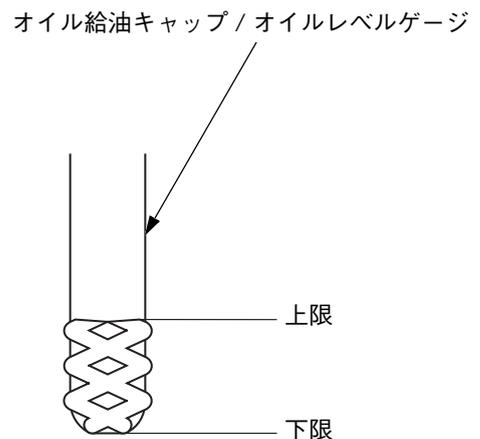
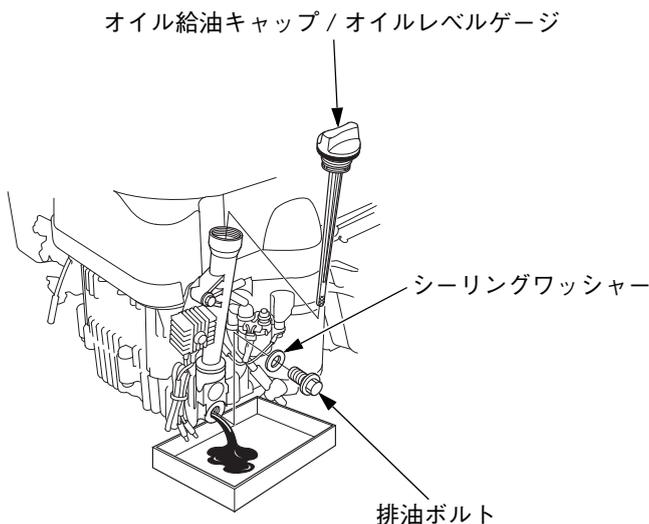
1.4 L…………… オイルフィルターカートリッジ仕様

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《交換方法》

1. 排油ボルトの下に適切な容器を置きます。
2. オイル給油キャップと排油ボルト、シーリングワッシャーを外してオイルを抜きます。
3. 排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
4. 新しいエンジンオイルをオイルレベルゲージの上限まで注入します。
5. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



取扱いのポイント

- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

エアクリナー（空気清浄器）の清掃・交換

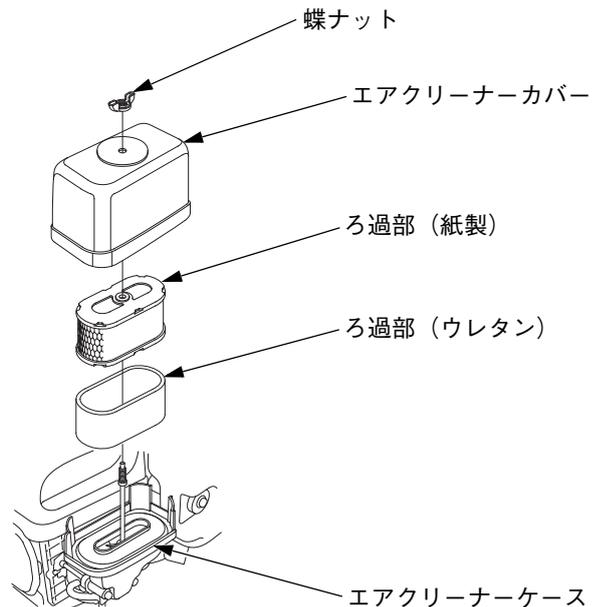
エアクリナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃、交換（紙製ろ過部のみ）をしましょう。

警告

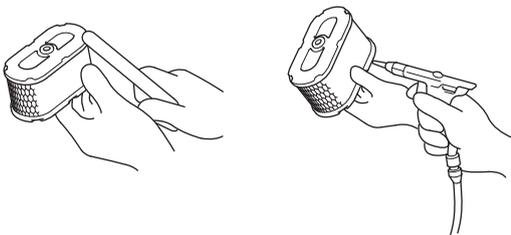
- ・ 洗剤油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- ・ 清掃は換気の良い場所で行ってください。

《清掃》

1. 蝶ナットを外し、エアクリナーカバー、ろ過部（ウレタン・紙製）を取外します。



2. ろ過部（紙製）を清掃します。
内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。
汚れがひどい場合は交換してください。



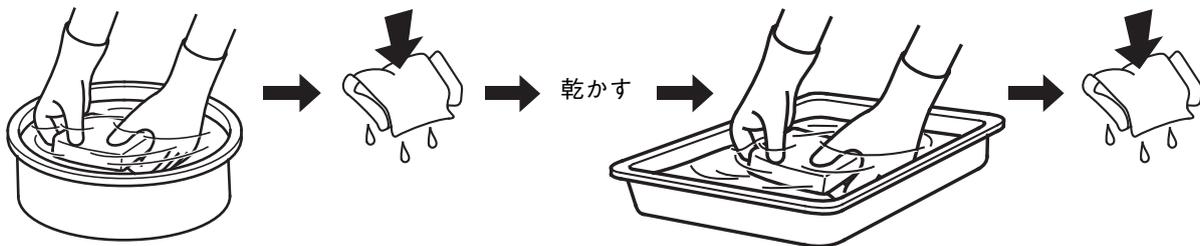
3. ろ過部（ウレタン）を清掃します。

洗い油または水で薄めた
中性洗剤で洗う

布で包み押し
つぶすように
しぼる

新しいエンジンオイル
に浸す

布で包み押し
つぶすように
しぼる



4. エアクリナーケースに付着したホコリを取除いてください。

5. ろ過部（ウレタン・紙製）、エアクリナーカバーを取外しと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

- ・ エアクリナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。
- ・ ろ過部（ウレタン）にオイルをつけすぎないように注意してください。

点検・整備のしかた

点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れていたり、火花すき間が不適當な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠ 注意

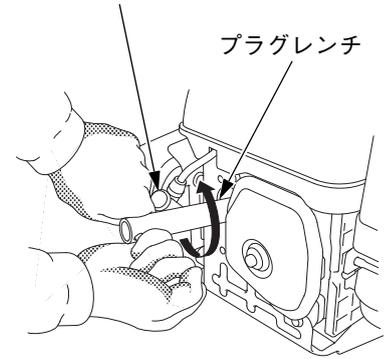
エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《清掃》

1. 点火プラグキャップを外します。
2. 点火プラグの取付け部周辺をエアブローし汚れを除去します。
3. プラグレンチとプラグレンチハンドルで点火プラグを取外します。
4. 汚れている場合はワイヤーブラシ等で側方電極部を清掃してください。
※ プラグレンチハンドルとワイヤーブラシは別売りです。

点火プラグキャップ

プラグレンチ



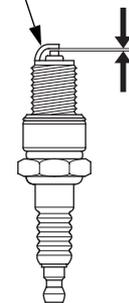
《点検・調整》

火花すき間を確認し、側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間：0.7－0.8 mm

取付けははじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチとプラグレンチハンドルで確実に締付けます。点火プラグキャップを確実に取付けます。

側方電極

火花すき間
0.7－0.8 mm



《指定プラグ》

BPR5ES (NGK)

取扱いのポイント

故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。

点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

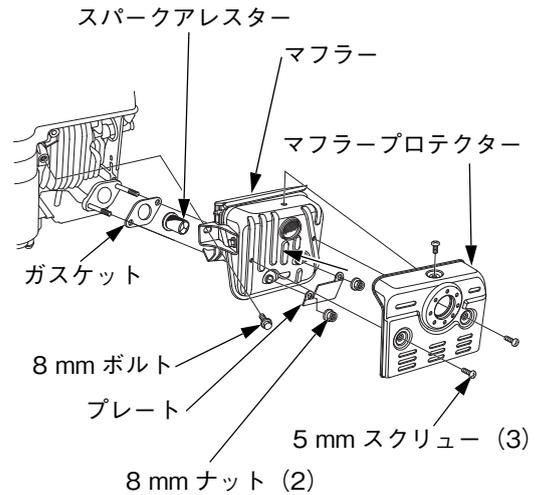
スパークアレスターの清掃

⚠ 注意

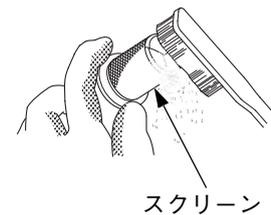
エンジン停止直後のエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《清掃》

1. 5 mm スクリュー 3 本を外し、マフラープロテクターをマフラーから取外します。
2. 8 mm ナット 2 個と 8 mm ボルトを外し、プレート、マフラー、ガasketを取外します。
3. マフラーからスパークアレスターを取外します。



4. スパークアレスターに目詰まりがないことを目視で確認します。目詰まりがある場合はワイヤーブラシ等でスクリーンを清掃してください。
5. 逆の手順でスパークアレスターをマフラーに取付け、ガasket、マフラー、プレート、マフラープロテクターを取付けます。



故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないで買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

エンジンがかからないとき

《セルフスターター付き》…………… バッテリーあがり等でセルフスターターが使用できない場合は、始動グリップを引いて始動してください。

・ バッテリーが充電しない場合 …………… バッテリーを点検してください。

(1) ガソリンは十分に入っていますか？ ・ 入っていない場合は補給してください。	(2) エンジンオイル量が不足していませんか？ ・ 少ない場合はオイルレベルゲージの上限までエンジンオイルを入れてください。
--	---



(3) 圧縮圧力は十分ですか？ ・ 始動グリップを勢いよく引いて、異常に軽い場合は、圧縮が漏れている可能性があります。
--



・ お買いあげの販売店にお申しつけください。



(4) 点火プラグが濡れたり、汚れたりしていませんか？ ・ 濡れているときや汚れているときは清掃するか新しい点火プラグと交換してください。	(5) 点火プラグの火花すき間は正しいですか？ ・ 火花すき間は 0.7 - 0.8 mm です。 ・ 火花すき間が正しくないときは調整してください。
(6) 点火プラグを取付けて再度始動してください。	



・ お買いあげの販売店にお申しつけください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。

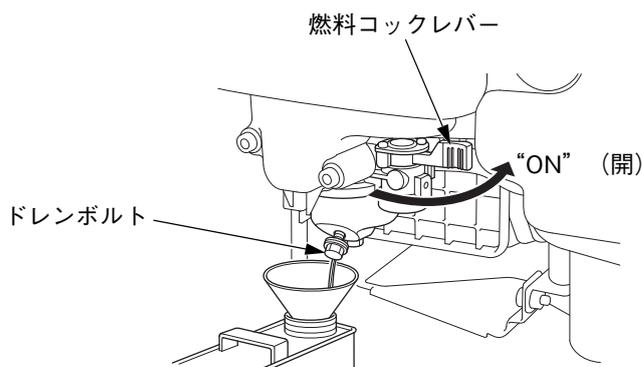
誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

⚠ 警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- ガソリンを抜くときは
 - ・ エンジンを停止してください。
 - ・ 火気を近づけないでください。
 - ・ 換気の良い場所で行ってください。
 - ・ ガソリンはこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

⚠ 注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラー等は非常に熱くなっています。ヤケドをしないように、各部が十分に冷えてから作業をおこなってください。



- 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
- 燃料タンク内のガソリンを抜きます。
- キャブレターのガソリンを抜きます。

燃料を受けるため、適切な容器をキャブレターの下方に配置してください。確実に燃料を受けるため必要に応じて、じょうごなどを使用してください。

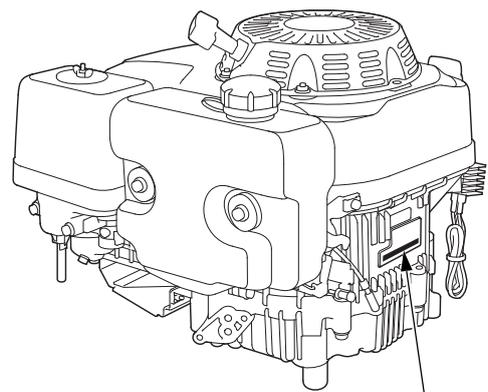
1. 燃料コックレバーを“OFF” (閉) の位置にします。(11頁参照)
2. ドレンボルトを1～2回転ゆるめて燃料を抜きます。
3. 燃料コックレバーを“ON” (開) の位置にします。
4. 燃料が出なくなったら、ドレンボルトを確実に締め付け、燃料コックレバーを“OFF” (閉) の位置にします。

- エンジンオイルを交換します。(14頁参照)
- エアクリーナーを清掃します。(14頁参照)
- エンジンが十分に冷えてからビニール等でカバーをします。
- 湿気、ホコリの少ない所に保管してください。

取扱いのポイント

- ・ 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- ・ オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。(6か月に1回新しいオイルと交換)

タイプ、エンジン号機の表示位置



主要諸元

名 称	GXV390
型 式	GJAAT
全 長	434 mm
全 幅	383 mm
全 高	406 mm
乾 燥 質 量 (重 量)	32.4 kg
形 式	空冷 4 ストローク横型単気筒 (OHV)
総 排 気 量	389 cm ³
連 続 定 格 出 力 / 回 転 速 度	5.2 kW (7.1 PS)/3,000 rpm
最大出力 / 回転速度 (SAE J1349 に準拠*)	7.6 kW (10.3 PS)/3,600 rpm
最大トルク / 回転速度 (SAE J1349 に準拠*)	24.2 N·m (2.47 kgf·m)/2,500 rpm
使 用 燃 料	無鉛レギュラーガソリン
燃 料 タ ン ク 容 量	2.1 L
エ ン ジ ン オ イ ル 量	1.1 L 1.4 L… オイルフィルターカートリッジ仕様
点 火 方 式	トランジスター式マグネト点火
始 動 方 式	リコイルスターター / セルフスターター

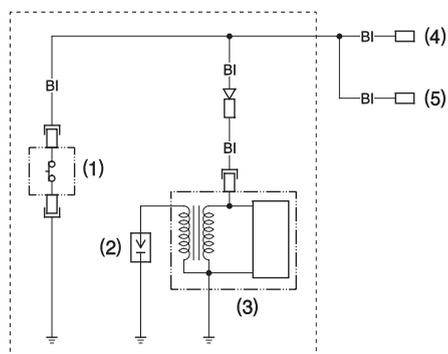
*ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600 rpm (最大出力)、2,500 rpm (最大トルク) で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。

完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※ 諸元は予告なく変更することがあります。

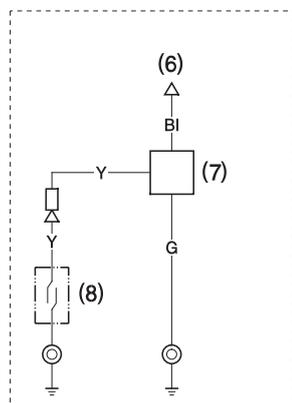
配線図

基本回路



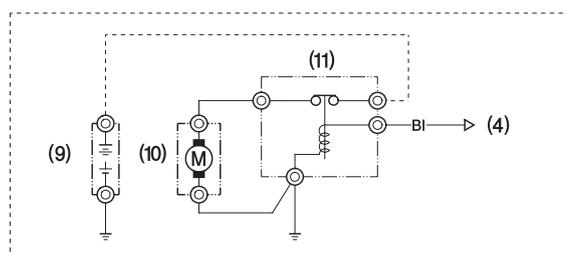
- (1) エンジンスイッチ
- (2) 点火プラグ
- (3) イグニッションコイル
- (4) コンビネーションスイッチへ
- (5) オイルアラート回路へ
- (6) エンジンスイッチへ
- (7) ブザー
- (8) オイルレベルスイッチ
- (9) バッテリー
- (10) スターターモーター
- (11) スターターソレノイド

オイルアラート回路



BL	黒
Y	黄
G	緑

セルフスターター回路



—メ モー

—メ モー

HONDA

The Power of Dreams

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120 - 112010

受付時間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- (1) 製品名、タイプ名
- (2) ご購入年月日
- (3) 販売店名

GXV390